



マンモス象と その仲間

井尻正二著



マンモス象と その仲間



井原正二著





著者の希望により絶印止

1951年10月10日 印刷

・ 1951年10月20日 発行

地球の歴史文庫

マンモス象とその仲間

定価八〇円

著者 井尻正二
いじりまさじ

発行者 福村 保 東京都文京区真砂町三六
印刷者 山田 一雄 東京都青梅市根ヶ布三八五

発行所 福村書店 東京都文京区真砂町三六
電話(85)六六〇・四六六四番 振替東京七八三一三

は し が き

戦争まえまでは、日本じゅうのどこの動物園へ行ってみてもたいてい象がいました。象は動物園一の人気者で、みんなに可愛がられていました。

ところが、戦争ちゅうに動物園の象はたいてい死んでしまいか、殺されてしまつて、終戦しゆうせんになつた時には、名古屋の動物園に象が二匹残つていただけで、日本中の象はみんないなくなつてしまいました。

戦争が終つて、上野（東京）の動物園にはじめて象がきた時には、日本中が象のうわさでわきたちました。子供だけでなく大人のひとも大さわぎをして象を見に行きました。こんなにみんなから好かれる象が、どうして日本には住んでいないのでしょうか。

でも、大昔の日本の国には象がたくさん住んでいたのです。それはどんな象だったのでしょうか。みなさんは知っていますか。それはマンモス象とその仲間たちだったのです。

マンモス象は、私たち人間の先祖が、はじめて地球の上にあられたころ、荒れくるう吹雪ふぶきのなかや、地上のあらゆるものをけすり去る氷河の上に住んでいた強くて大きな象でした。そして、時には人間の先祖にもたゝかいをいどみ、私たちの先祖もその牙にかけられ、その足にふみにじられたこともあったのです。マンモス象はそれほど大きくて強い象だったのです。このマンモス象はいつ日本へやって来て、いつ日本から消えていったのでしょうか。

また、みなさんに可愛がられる象は、いったい、どこの国に住んでいるのでしょうか。そして象の鼻は、昔からあんなに長かったのでしょうか。象の赤んぼうは鼻からお乳を飲むのでしょうか。象についてのみなさんの質問や、生物の進化

についての疑問は数かぎりないことと思います。こうしたみなさんの質問や疑問に、できるだけお答えしようと思つて書いたのがこの本です。

この本の中でてくる美しいさし絵は、金子三蔵先生と伊藤治子さんの苦心のたまものです。東京大学の高井冬二先生と上野の動物園の林寿郎先生はたいせつな本をかして下さいました。東京大学の生越忠先生と武蔵高等学校の新堀友行先生は、本をつくる仕事をてつたてて下さいました。そして、福村書店の御主人・福村保さんとへんしゅう部の鈴木重生さんの大へんなお骨折りでこの本ができたのでしたのです。

みなさんといっしょに、これらの方々におつく御礼を申しましょう。



目

次

はしがき……………一

一 動物園の人気もの・象のトンキー……………一

二 日本に住んでいた象……………八

1 ブノロフォドン象……………八

2 ステゴドン象……………二六

3 ナウマン象……………二二

4 マンモス象……………二六

5 象の化石はどんな役にたつか……………三二



三 大むかしの象……………三八

1 メリテリウム象……………三八

2 ダイノテリウム象……………四四

3 マストドン象……………五〇

4 ステゴドン象……………五〇

5 エレファス象……………六八

6 象の先祖は何を教えるか……………七七

四 いま生きている象……………六八

五 動物園に来た象・花子とイン

デイル……………二二

あとがき……………二三

さくいん……………二三

マンモス象とその仲間

・図版もくじ・



1 図	おなかのすいたトンキー	2
2 図	トンキーの最後	5
3 図	朝日新聞に出たデスモスチルスの記事	9
4 図	地質をしらべるいろいろな道具	10
5 図	ビカリヤ貝	11
6 図	ブノロフォドン象の上顎と下顎の化石	12
7 図	ブノロフォドン象の復元図	13
8 図	ステゴドン象の歯の表面と側面	17
9 図	地質の年代と代表的な象	19
10 図	ナウマン象の上顎の歯	24
11 図	ナウマン象の復元図	25
12 図	虎戦車をふみにじるマンモス戦車	29
13 図	化石のできるまで	33
14 図	大昔の日本の陸と海(中新世・鮮新世)	35
15 図	人魚の見せもの	39
16 図	ジュゴン	40
17 図	メリテリウム象の復元図	41
18 図	くじら・ジュゴン・象の前足	42
19 図	メリテリウム象・ジュゴン・化石の海牛の頭骨	43
20 図	ダイノテリウム象の下顎骨	46
21 図	ダイノテリウム象の復元 I (オズボーンの復元)	47
22 図	ダイノテリウム象の復元 II (アーベルの復元)	47
23 図	ダイノテリウム象の復元 III (発見された骨の化石・組み立てられた骨格)	48
24 図	ダイノテリウム象の復元 IV (石膏でつくった復元模型)	49
25 図	フィオミア象とパレオマトドン象の復元図	51
26 図	フィオミヤ象とパレオマトドン象の下顎の歯	52
27 図	プラティペロドン象	54

28 図	アメバロドン象	55
29 図	マストドン象の鼻と牙のさまざま (その I)	56
30 図	マストドン象の鼻と牙のさまざま (その II)	57
31 図	オズボーン先生	58
32 図	ステゴドン象の復元図	61
33 図	人間の歯 (切歯・犬歯・小白歯・大白歯)	63
34 図	象の臼歯のはえ方	65
35 図	矯正しない前と矯正したあとの口もとのちがい	67
36 図	イルクーツクからペリョゾフカまでの旅	69
37 図	やっと掘り出された氷づけのマンモス象	71
38 図	お医者さんの注射と実験動物たち	81
39 図	三葉虫と紡錘虫	84
40 図	恐竜とアンモナイト	85
41 図	古生代・中生代の化石	87
42 図	染色体の写真と遺伝因子の想像図	91
43 図	インディアンのとーテムポール	97
44 図	働いている象たち	101
45 図	インド象	102
46 図	アフリカ象	102
47 図	インド象とアフリカ象の鼻の穴	103
48 図	インド象とアフリカ象の臼歯	104
49 図	象の親子	109
50 図	象狩り	110
51 図	上野動物園の花子さん	115
52 図	読売新聞に出た古賀動物園長さんの記事	117
53 図	ミチューリン先生	119



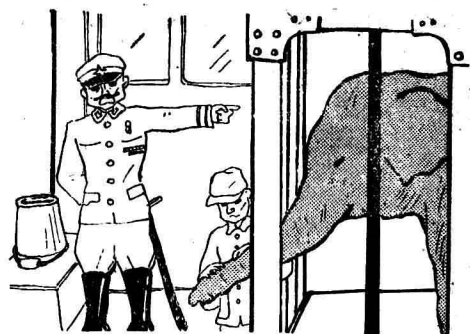
一 動物園の人気もの・象のトンキー

カットはマンモス象



日の暮れかかった動物園のうす暗い象の小屋の前を、わらをひとか
かえほど持った小父^{おじ}さんがコソコソと歩いていました。この小父さん
は何か悪いことでもしようとしているのでしょうか。小父さんはキョ
ロキョロとあたりを見まわしながら、ソーッと象の小屋へ近づいて行
きました。

動物園の人気者・象のトンキーは、小父さんの足音を聞いて、なつかしそうに鼻を
ならしました。小父さんはトンキーにわらをやりに来たのでした。トンキーは小父さ
んが持ってきてくれたわらをおいしそうに食べて、「もつとごちそうをください」とい
って、長い鼻をまきあげて「オオーン」となきました。でも、小父さんの手には、も
う何もやるものはありませんでした。



1 図 おなかのすいたトンキー

小父さんの目は涙でぬれていました。

動物園の小父さんたちは、軍人から象に食べ物をやってはいけなさと命令されていたのです。でも、小父さんたちは、こんなにやさしい、りこうな象をなせうえ死にさせるのかわけがわかりませんでした。小父さんたちは家へ帰っても、象が可哀そうで可哀そうでごはんものどへ通りませんでした。そして、とうとうがまんができず、軍人の命令にそむいて、わらを持って象の小屋にしのびこんで来たのです。こうした日がいく日もすぎました。しかし、トンキーはとうとうおなかがすいたあまり、冷たい鉄のおりの中で死んでしまいました。動物小屋の小父さんたちは、冷たくなったトンキーの死がいのそばで、ポタリポタリと大きな涙を流して泣いておりました。

このトンキ一の悲しい最後は、あのいやな戦争に日本がまけはじめた、一九四三年（昭和一八年）の九月に、東京の上野の動物園でほんとうにあった話です。どうして、みんなに可愛がられ、ほかの動物にくらべて一ばん気のやさしい象がうえ死にをさせられたのでしょうか。

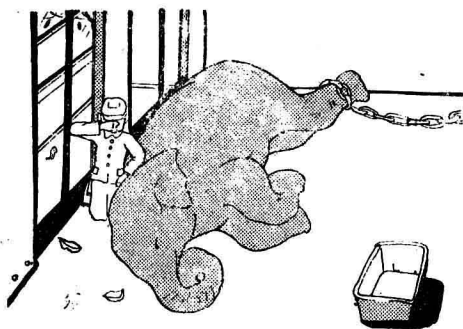
一九四一年（昭和一六年）二月八日、ハワイの真珠湾^{しんじゆわん}を不意打ちしてはじまった日米戦争（第二次世界戦争）も、一九四三年には日本の旗色が悪くなり、日本も空しゅうされる心配が多くなってきました。戦争にまけたすと、今までいばっていた軍人はすっかり国民の信用をなくしてしまいました。国民に馬鹿にされてくると、軍人はあせつてますますらんぼうになり、気狂いのようなことをやりだしました。やれ強制疎開^{きようせいそかい}だといっては、かわりの家もあたえないで、今まで住んでいた人を追いだし、一日のうちにたくさんの人家をこわしてしまいました。また、お母さんや姉さんたちを集めて竹槍^{たけやり}のくんれんをしたりしました。そしてついには、「動物園の象を殺してしまえ」という、どこの国でも聞いたことがないような命令をだしたのです。軍人にいわせ

ると、もし動物園が空しゅうをうけたら、象がおりからあばれだして危険だ、というのでしよう。

象のような、りこうで気の小さい動物が、どうして人を傷つけたり殺したりするでしようか。象は虎やひょうとはちがって、わらやおいもしか食べないやさしい動物だということ。軍人は知らなかったのでしょうか。

らんぼうな軍人の命令なので、動物園の小父さんたちも、いやいやながら象を殺すことにかくごをきめました。

動物を殺すのには、動物の頭（脳）を鉄砲やピストルで打って銃殺するのが、動物を苦しめない一ばんよい方法なのです。しかし、静かな動物園の中から、「バンバン」という鉄砲の音が聞えてきたら、動物園の近くに住んでいる人たちが、「ああ、日本もいよいよまけてきたので、動物園の獣たちを殺したな」といって、心配したりさわいだりすると困るといので、毒薬を飲まして動物を殺すことになりました。しかし、りこうな象はどうしても毒を飲みませんでした。



2 図 トンキーの最後

そこで、困ってしまった軍人は、こんどは毒薬を注射して象を殺そうと考えました。しかし、象の皮膚は木の皮のように固くって、注射器の針がさゝりませんでした。とうとうしかたがなくなつて、食べ物をやらないで象をうえ死にさせるといふ、世の中で一ばんさんこくな方法で象を殺すことになったのです。

みなさんは、自分だけがおいしいごはんを食べて、自分の弟や妹のように可愛がつている犬や猫に、食べ物をやらすにうえ死にさせることができますか……。

こんなことは考えただけで身ぶるいがありますね。
一日……二日……三日……と食べ物がない日が続き
ました。トンキーは長い鼻を一ぱいにのばして食べ物
をさがしました。でも、冷たいコンクリートの床の上
には、わら一本、にんじん一きれ落ちていませんでし

た。トンキーはどんなにおながすいたことでしょう…………。

動物小屋の小父さんたちの姿を見ると、「ごちそうをください」といって、小父さんの足に長い鼻をからませたり、チンチンやさかだちの芸とうをして見せました。でも、軍人の命令で象をうえ死にさせなくてはならなかったのですから、食べ物をやることはできませんでした。動物園の小父さんたちはかげで泣いていました。そしてたまりかねて、象の小屋にソーッとしのびこんで、ほかの動物にやるはずのわらやおいもをわけてやることもありました。でも、大きなからだの象には、これが何のたしになつたでしょうか…………。

一週間……二週間……三週間と月日がたって行きました。そして、象は日一日とやせおとろえて元気がなくなつてゆきました。

秋風のたつた九月のある朝、トンキーは冷たいコンクリートの床の上に横たわつて、あのやさしい小さな目をしていました。そして、ガランとした動物小屋の中には、鉄のおりが、お墓のかきねのようにトンキーの死がいを取りかこんでいました。

トンキーは、きつと、青い草ややわらかい木の芽が一ぱいにおいしげったインドの森や、長い鼻でトンキーのからだをやさしくなでながら、おなか一ぱいお乳を飲ましてくれたお母さん象を思いだしながら、最後の息をひきとったことでしょう。きつと、トンキーのやさしい、小さな目には、涙が一ぱいあふれていたことと思います……。こうして、トンキーの最後は、日本にいる象の最後ともなったのです。

野山に象が住んでいない日本の国では、戦争が終って外国から象がおくられるまで、とうとう象を見ることができなくなりました。日本の野山にも象が住んでいればよいのですが、どうして日本には象がいないのでしょうか。日本には大昔からせんせん象はいなかったのでしょうか。それとも、昔いた象は私たちの先祖に狩りつくされてしまったのでしょうか。また、日本に象が住んでいたかいなかったかは、どうして調べますか。学校では生物の先生に質問したらよいのでしょうか、地学の先生にうかぶたらよいのでしょうか。もし、自分たちで日本に象がいたかいなかったか、いたとすればそれはどんな象だったかを研究するのはどうしたらよいのでしょうか……。